様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年６月２９日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：２００６～２００８
課題番号：１８５１０２２３
研究課題名（和文）　俳句、和歌、川柳を媒体に表象されるハワイ日本人移民の社会史的文化史的研究
研究課題名（英文）　Social and Cultural History of Japanese Immigrants in Hawaii as Seen Through Their Haiku, Tanka and Senryu

研究代表者
島田　法子　（SHIMADA NORIKO）
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号：００２０６１８７

研究成果の概要：
戦前、多くの日本人が農業労働者としてハワイに移民した。彼らは、激しい労働や貧しい生活、そして日米戦争のはざまに置かれた苦労を、俳句や短歌、川柳に書き残した。この研究は、今まで研究者が着目することのなかったそのような文芸作品を歴史資料として扱い、社会史・文化史のアプローチを使って、日本人移民史を掘り起こしたものである。一世移民の生の声を分析し、彼らの日本人意識、愛国心、アメリカ観、家族やジェンダー等を読み解いた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	1,000,000	0	1,000,000
２００７年度	500,000	150,000	650,000
２００８年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2100,000	330,000	2430,000

研究分野：西洋史、アメリカ合衆国史
科研費の分科・細目：地域研究・地域研究
キーワード：(1) ハワイ日本人移民史、(2) ハワイ日系人文化変容、(3) 日系人文学、(4) 戦時期の移民の忠誠心、(5) 日系人の俳句・短歌・川柳

１．研究開始当初の背景

この研究は1995年以降継続してきたハワイ日系人研究の一環である。第二次世界大戦期に強制立退き・収容されたアメリカ西海岸の日系人に関しては日米両国の研究者による多くの研究蓄積がある（筆者も1995年に『日系アメリカ人の太平洋戦争』を著した）。それに対してハワイ日系人に関する研究は、顕著な日米外交関係上の問題や戦時の全日系人強制収容に相当する劇的な歴史がないため、合衆国においても日本においても注目されることが少なく、未開拓の研究分野となっている。筆者はハワイ日本人移民史の空白を埋める作業と

して、文化変容をキーワードにして、戦前の日系人社会の米化運動、仏教のハワイ定着とアメリカ化、そして第二次大戦期の日系人社会の経験の諸相を、社会史のアプローチを用いて考察し、論文ならびに著書として研究成果を発表してきた。今回の研究課題はさらに一歩進めて、特に今まで全く取り上げられることのなかった日本人移民の文芸活動（俳句、和歌、川柳を中心に）を取り上げることにした。

２．研究の目的

ハワイ日本人移民が文芸作品という媒介を通して、移民体験の諸相をどのように表象し、時代の変化にどのように対応し適応していったかを、作品分析と歴史分析を交錯させて社会史的に考察することを目的とした。

また、日系人の文芸作品は主流社会にはほとんど知られていないので、研究の成果を主流社会にむけて発信することも目的とした。

具体的に以下の4つの目的を追求。

（1）第二次世界大戦期までのハワイ日本人移民の経験の表徴媒体としての文芸作品（俳句、和歌、川柳）の発掘・収集を行うこと。特に移民史上重要な時期の作品に関しては、作品を編纂・印刷し、他の研究者の利用に提供すること。

（2）一部優れた作品を英語に翻訳して発表し、ハワイを含めたアメリカの研究者にも提供すること。日本人移民の文芸作品はほとんど英訳されておらず、アメリカ主流社会にはその存在すら知られていない。主流社会の視点からは、日系人の文芸活動は第二次大戦後の二世作家の自伝や小説によって突然花開いたかのようにみえている。

（3）日本人移民が作品を創作・発表するに至った経緯、活動や組織を調査し、社会史のアプローチで考察し、論文にまとめること。

（4）英語で論文をまとめ、アメリカの学会で発表する。

３．研究の方法

（1）社会史のアプローチ

戦前の日本人移民は、ハワイの砂糖プランテーションにおける[契約]労働者として不自由な労働形態に縛られ、政治的には外国人として公民権を与えられず不平等な立場におかれ、文化的には主流文化から疎外された状況にあり、いわばハワイの内部で植民地化された存在であった。しかも移民たちは英語を理解せず、日本語で表明された彼らの声は主流社会の研究者によって知られないままにあり、歴史の表舞台に出てこない。今回、彼らの残した作品を収集し、作品の背後にある歴史との関わりを社会史的な視座から考察する。

（2）日系人の視野に立つ研究

ハワイ内部で植民地化された日系人社会における彼らの体験を、彼らの作品を中心に据えることによって、彼らの視点から捉え直す。彼らを、単に白人砂糖プランターたちの経済支配の対象と規定するのではなく、ハワイ社会の一構成主体として捉える。

（3）エスニシティ、ジェンダーの視点

ハワイ移民とエスニシティ、ジェンダーという座標軸を設定することにより、ハワイにおける日本人移民史研究に新たな方法を提示する。

（4）日本・ハワイの文化交差の視点

彼らは激しい労働の合間に俳句、和歌、

川柳を詠み、同好の志とグループを組織し、わずかな休日に集まって作品を互いに批評し、日本語新聞に投稿して発表しつづけた。彼らは日本の伝統的詩歌の様式を守り、日本の文壇とも繋がりを持ち、自ら文芸作品を創作することを継続した。すなわち、移民社会のみに限定した一限的な捉え方を廃し、移民たちが、祖国日本、定住地ハワイ社会、そして日系人コミュニティという三層構造をどのように捉えていたかを作品から読み取ることである。彼らは、ストライキや、排日運動、日米戦争等の危機に際して、この三層構造をどのように詠んでいるであろうか。

(5) 歴史史料としての文芸作品

戦争と移民の関係にかんする研究に、新しい史料を開拓する。第二次世界大戦中の日本人移民が残した記録は限られている。軍事政権によって10人以上で集まることを禁止された敵性外国人（日本人）は、俳句や短歌の結社による組織的文芸活動も中止せざるを得なかった。しかしハワイに残って者は自宅で、逮捕・拘禁された一部の者は抑留所において、創作を続けていた。戦争の傷跡は彼らの作品に記録されていることを示し、文芸作品の史料的価値を明らかにする。

以上の5つのアプローチを持ち、実際の研究活動には、以下のことを行った。

(1) ハワイ大学マノア校での調査

本研究の目的の一つは、戦前の日本人移民による文芸作品の発掘・収集であり、ハワイ大学ハミルトン図書館に所蔵されている資料収集のために出張する。特に重要なのは、アーカイヴズに所蔵されている日本人移民が発行していた文芸雑誌から文芸作品を写し取ることである。初期のものはここでしか見ることができない貴重な収蔵品であり、また手作りガリ版印刷の冊子は触れることも危険な状態にあるので、コピーは認められない。従ってコンピュータを持参してその場で入力する。それも許可されない場合には手書きで写し取ることが必要。ついで、日本語新聞『布哇報知』の文芸欄を追って、掲載されている俳句、和歌、川柳をコピーする。

(2) ホノルルにある日系人博物館

博物館所蔵の資料の収集をする。ハワイ大学ほどではないが、ある程度の資料は所蔵されている。

(3) 現在ホノルルで活動中の俳句、和歌の3団体の責任者を訪問し、インタビューをする。高齢であるが、いまでも戦前の記憶をもつ俳人が活動を続けている。

(4) ハワイ島にある日本人移民博物館に足を延ばし、資料収集にあたる。また、ハワイ島にある俳句結社を訪問し、資料収集するとともに、インタビューをする。

(5) コンピュータに入力

収集した作品をコンピュータに入力し、データベース化する。収集した作品を、今後の研究の資料として使ええるようにする。

4．研究成果

(1) 今までの日系人研究において、俳句、短歌、川柳をとりあげた研究は数少ない。そして、文芸作品を史料として扱い、社会史・文化史の視点から取り上げた研究に関してはほとんど先行研究がない。今回の研究はその意味で新しい研究分野を切り拓いたということができよう。

具体的には、俳句、短歌、川柳を資料として４本の論文を発表した。第１の論文、島田法子「俳句と俳句結社にみるハワイ日本人移民の社会文化史」では、太

平洋戦争勃発までのハワイにおける俳句結社の誕生と変遷を追い、日本人としてのアイデンティティ、祖国日本の俳壇とのつながり、ハワイ独自の『布哇歳時記』の編纂、そしてハワイにおけるコミュニティ形成と移民のハワイへの定着を反映した「俳句のハワイ化」の分析を行った。

第２の論文、島田法子「第二次世界大戦をめぐるハワイ日本人移民の忠誠心と日本人意識―俳句・短歌・川柳を史料として」では、第二次世界大戦直前の一世移民社会、戦中の一世社会、そして戦後の一世社会が、日米対立と戦争を巡って、祖国日本への愛国心とアメリカへの忠誠にゆれる気持ちをどのように俳句・短歌・川柳に表現したかの分析を行った。歴史資料としての文芸作品の有用性を示したものである。

第３の論文、高木（北山）眞理子「俳句・短歌から見る日系移民の姿（１９３０年～１９６０年）―ハワイ島を中心に―」では、特にハワイ島の日系社会と俳句結社、短歌詩社の社会史的役割の分析を行った。ハワイ島の日本人移民の手によって作られた俳句・短歌作品を通して、この島の人々の日常生活、自然、母国、日本文化、二世の子供たちに対する考え方などを見出そうとした試みである。（pp.1-15.）

第４の論文、高木（北山）眞理子「俳句・短歌・川柳を通してみる一世女性の心情―ハワイ社会史の一頁として―」は、特に女性移民の生活史を辿った。一世女性ならではの感性が息づく作品や、妻や子を想う男性の作品を紹介し、その社会背景を明らかにすることで、女性たちの姿と彼女らの想いを明らかにした。

（2）収集した作品のデータベース

膨大な量の文芸作品をすべてコンピュータに入力することはできなかったが、「移民と祖国、忠誠心」「移民と家族」「女性移民」「移民と労働」「ハワイの風景」をキーワードにして作品を選択・分類し、それらを入力した。将来の研究の資料となるはずである。

（3）作品の英訳と出版

ハワイ日本人移民の研究は、日本語文献を用いることが必須である。それゆえ、アメリカの研究者はこれを取り上げることが困難である。今回、約千の俳句・短歌作品を英訳し出版し、アメリカの研究者に提供した意義は大きいといえよう。取り上げた俳人の数は３３名、歌人は６６名に達し、作品が掲載されている句集、歌集、文芸雑誌は２３に及ぶ。翻訳した作品は、ハワイの生活、家族、祖国と望郷、帰郷、サトウキビ畑と労働、ストライキ、日米戦争の接近、真珠湾奇襲と開戦、大陸抑留、戦後の日系人社会、戦後の日本、ハワイ立州等をキーワードにして選択・分類し、作者別に翻訳した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

（1）島田法子「第二次世界大戦をめぐるハワイ日本人移民の忠誠心と日本人意識―俳句・短歌・川柳を史料として」、日本女子大学英米文学研究、査読無、４４巻、２００９年、１１９－１４２ページ。
（2）北山・高木・眞理子「俳句・短歌・川柳を通してみる一世女性の心情―ハワイ社会史の一頁として―」、愛知学院大学文学部紀要、査読無、３８巻、２００９年、１－１０ページ。
（3）島田法子「俳句と俳句結社にみるハワイ日本人移民の社会文化史」、日本女子大学文学部紀要、査読無、５７巻、２００８年、５５－７５ページ。
（4）北山・高木・眞理子「俳句・短歌から見る日系移民の姿（１９３０年～１９６０

年）―ハワイ島を中心に―」、愛知学院大学文学部紀要、査読無、３７巻、２００８年、１－１５ページ。

〔学会発表〕（計１件）
（1）北山・高木・眞理子
“Issei Women and Haiku/Tanka Poems in Hawaii,” Symposium: “The Legacy of Japanese Women: Past, Present, and Future,” San Francisco, March, 2008.

〔図書〕（計１件）
（1）島田法子編著『俳句・短歌・川柳にみるハワイ日本人移民史―英訳　俳句・短歌』、出版者島田法子、２００９年、１９９ページ。

〔その他〕（計１件）
ハワイ日本人移民の俳句・短歌データベース

６．研究組織
(1)研究代表者
島田　法子
日本女子大学・文学部・教授
００２０６１８７
(2)研究分担者
北山　眞理子
愛知学院大学・文学部・教授
００２１６６３１